

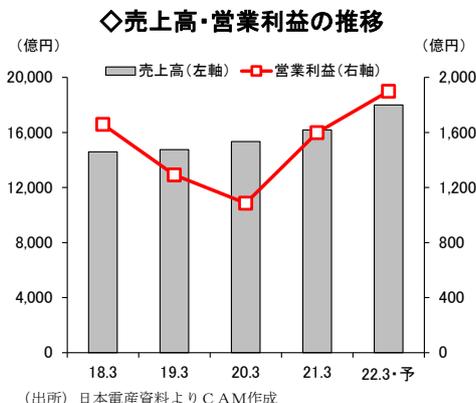
企業ニュース 日本電産

(東証1部：6594) <https://www.nidec.com/jp/>

作成者：村上大志

E-Axle (イーアクスル) の販売台数予測を上方修正

1973年設立。精密小型モータにおける数々の技術革新、海外代理店の拡張、積極的なM&Aなどで事業を拡大。特にM&Aを成長の原動力として戦略的に活用し、成立後の統合プロセスの評価も高い。EV（電気自動車）用トラクションモータ「E-Axle (イーアクスル)」に注力しており、同システムを供給する部品メーカーとしては世界トップクラスの実績を誇る。22.3期・第2四半期決算説明会において、26.3期の販売台数予測を280万台から350万台に上方修正した。6月に関社長（元日産自動車執行役員最高執行責任者）がCEO（最高経営責任者）に就任したが、創業者で代表取締役会長の永守氏との二人三脚による経営は維持されており、今後3～5年かけて権限を移譲するとしている。



ロックダウンの影響などがあったが、通期計画を上方修正

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が9,107億円、前年同期比21%増、営業利益が902億円、前年同期比30%増。上期の売上高としては過去最高を更新。営業利益はベトナムを中心とした東南アジアの製造拠点でのロックダウンなどにより約111億円の一時費用が発生したが、家電・商業・産業用製品や車載製品、機器装置の売り上げ増加に加え、原価改善及び固定費適性化などで2桁の増益を達成した。

22.3期の会社計画は売上高が1兆8,000億円、前期比11%増、営業利益が1,900億円、同19%増。上期実績の上振れ分のみを反映し、通期の売上高を1,000億円、営業利益を100億円上方修正した。ロックダウン影響のあったベトナム工場は操業度が上昇してきている模様で、下期にかけ挽回が期待される。トラクションモータについては客先が広がっているとのことで、自動車生産の回復に合わせ受注の上積みも期待される。収益性の改善も着実に進んでおり、特に家電・商業・産業用では得意の軽薄短小技術による新製品の投入が寄与しているようだ。

【株価動向・投資判断】

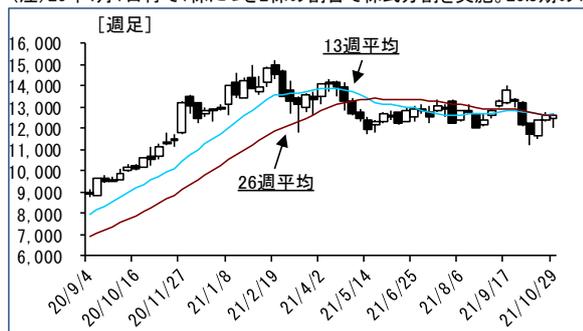
トラクションモータに対する期待値は高まっている。事業ごとの収益性も改善傾向で、底堅い成長が期待できよう。

<6594 日電産 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,534,800 (4)	108,558 (▲ 16)	105,160 (▲ 19)	58,459 (▲ 47)	99.4	115.00
21.3	1,618,064 (5)	159,970 (47)	152,937 (45)	121,945 (109)	208.2	60.00
22.3 予	1,800,000 (11)	190,000 (19)	185,000 (21)	148,000 (21)	252.7	60.00

(注) 20年4月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を実施。20.3期の1株利益は当該株式分割考慮後の数値、1株配当は分割前の実際の配当金額



【主要株価指標】 (売買単位：100株)	
株価 (2021/10/29)	12,570 円
年初来高値 (高値日)	15,175 円 (21/2/16)
同 安値 (安値日)	11,170 円 (21/10/5)
予想 P E R (22.3 予)	49.7 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,965.3 円
P B R	6.40 倍
予想配当利回り	0.48 %
(1株当たり配当金年60.00円)	
R O E (21.3)	11.9 %
発行済み株式数	59,628 万株